

## 谷川瀬の家 (2007年)

明治元年に建てられ130年の歳月を経た住宅の改修工事です。

住居は大黒柱が整然と小気味よく配置された梁をささえ、柱と梁、漆喰壁が凜としてデザインされた様はまさに古民家そのもので始めて伺ったときはうっとりとしたものです。しかし多少ならずとも問題をかかえていたようです。



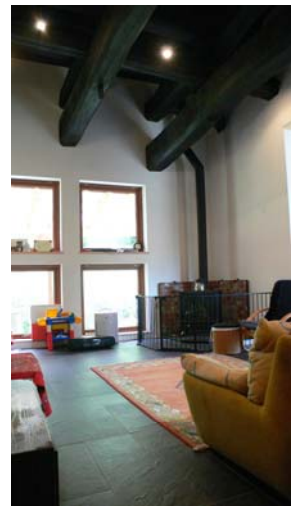
古い家にはほとんど共通の問題だと思われませんが、寒くて湿気があり暗いとのことでした。住居が造られた当時は断熱を考慮したわけでもなく、しかも年月が経てば隙間も多くなってきます。当たり前と言えばあたりまえなのですが生活をしていく上で寒いのは困りものです。

一方床下の湿気対策も万全ではありませんから湿気もあがってきて、室内にカビが発生し衣類等にイタズラをするという現象も起こっていますし、健康に及ぼす影響も無視できません。



寒く湿気のある部屋はほとんど物置化し居住空間が限られていることから、新たな動線を生み出す必要がありました。昔はそうであったらう大空間への回帰は幸い構造体がしっかりしているのでどうにかかなりそうですし、大空間に必要な断熱も考慮した改修工事は「住み続ける」をコンセプトにしてはじまりました。

改修後、『住みはじめてから室内は冬の寒さを感じることなく梅雨時も以前のじめじめ感が無くなった、暑い日も室内に入ると気持ちが良い。』とはクライアントの評価です。内壁は貝殻漆喰壁の吹付け仕上げとしたのですが、これがかなり効果があり臭いがしないとのこと。以前の生活と比較できる改修工事ならではの感想かと思えます。是非これからも住み続けてもらいたいと願っています。



とにもかくにも大変な工事で工期も予定よりかかりクライアントには迷惑をかけてしまいました。原因は断熱工事にありました。ご存じのように断熱は断熱材が閉じてくれないと効果は発揮してくれません。

昔の建物、しかも出桁で屋根がかかっていますので面戸廻りに時間がかかりました。梁を表しにしたかったので小屋断熱と天井断熱の併用で通気層の確保にも時間がかかりました。

一方柱、壁も時間が経っていますから真っ直ぐではありません。でも真っ直ぐなものは真っ直ぐにと当たり前で造ることは時間がかかります。



Data

所在地：福島県いわき市平谷川瀬地内

家族構成：夫婦+子供二人

構造規模：木造在来工法

設計監理：吉田敏彦建築設計室